

2018 年度 大学院秋季入試（英語学専攻）

博士課程（前期）

専門科目 言語文化学

---

【合否判定の方法】

提出書類および試験、面接の成績を総合的に評価し、合否を判定する。

【合否判定の基準】

提出書類および各試験の結果を総合的に評価し、研究計画の妥当性および博士課程における研究遂行能力を有しているかを判断する。

1 試験日 2017 年 10 月 7 日

2 科目 言語文化学（100 点満点）

3 出題意図

本試験は、言語文化学に関する基礎知識、概念理解、読解力、および論述能力を多面的に評価することを目的とするものであり、設問 [1] ～ [3] を通じて、受験者の専門的素養と研究適性を総合的に判断する。

まず設問 [1] は、言語政策、多言語主義、民族と言語、文化と言語教育などに関する基礎的かつ応用的な知識を問うものである。各設問において「自分のよく知る国」を前提とした具体例の提示が求められていることから、単なる知識の再生ではなく、理論的概念を具体的事例に適用し、的確に説明する能力を評価することを目的とする。また、概念定義（例：receptive multilingualism）や用語説明（例：caste, ethnicity, egalitarianism）を通じて、専門用語の理解の正確さと説明力も測定する。

設問 [2] は、ジオリングスティック・エスノグラフィーに関する英文読解および語彙・文法理解を問うものである。本文の内容理解に基づき、文脈に最も適切な語を選択することが求められており、単なる語彙知識にとどまらず、学術的文章の論理構造や概念的関係性（言語・文化・時間・空間の相互関係など）を正確に把握する読解力を評価することを目的とする。

設問 [3] は、提示されたテーマの中から一つを選び、一定の分量で論述する課題である。ここでは、言語と文化の関係、多言語主義の応用、あるいは自身の研究の位置づけといった

テーマについて、論理的かつ一貫した議論を展開する能力が求められる。受験者が自らの知識や問題意識をもとに、学術的に妥当な構成で論述できるか、また専門分野における思考の深さと発展性を有しているかを評価することを目的とする。

以上により、本試験は、基礎知識の理解、読解力、応用力、および論述力を総合的に測定し、博士課程前期課程における学修および研究遂行に必要な能力を有しているかを判断するものである。

以上